

第 1 回協議会の開催概要

日時	令和 7 年 5 月 2 7 日（火） 10:00～12:00	場所	オンライン会議（Webex）
出席者	東北大学 大学院環境科学研究科 教授 吉岡氏 岩手大学 理工学部システム創成工学科 教授 大河原氏 青森県・中野渡氏・田澤氏、八戸市・早狩氏、弘前市・葛西氏、 岩手県・本正氏、佐藤氏、盛岡市・南幅氏、 岩手沿岸南部広域環境組合・平野氏 宮城県・渡邊氏、仙台市・大江田氏、石巻市・斉藤氏 秋田県・山崎氏・工藤氏、秋田市・佐藤氏、北秋田市・村形氏、 山形県・黒沼氏、山形市・高橋氏、鶴岡市・小野寺氏・菅原氏 福島県・戸來氏、福島市・根本氏、郡山市・伊東氏、いわき市・西山氏、 喜多方市・五十嵐氏 一般社団法人 岩手県産業資源循環協会・玉懸氏 一般社団法人 宮城県産業資源循環協会・新澤氏 一般社団法人 秋田県産業資源循環協会・石井氏（オブザーバー） 一般社団法人 山形県産業資源循環協会・三澤氏 一般社団法人 福島県産業資源循環協会・星氏・齋藤氏		
	国土交通省 東北地方整備局 企画部 技術管理課課長補佐 国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 港湾空港防災・危機管理課 課長補佐		齋藤氏 大場氏
	環境省 東北地方環境事務所 所長 環境省 東北地方環境事務所 次長 環境省 東北地方環境事務所 資源循環課 課長補佐 環境省 東北地方環境事務所 資源循環課 課長補佐 環境省 東北地方環境事務所 資源循環課 課長補佐		中島 藤田 谷津 佐々木 佐藤

令和 7 年度第 1 回 災害廃棄物対策東北ブロック協議会

日時：令和 7 年 5 月 2 7 日（火）10 時 00 分
（オンライン開催）

次 第

1 開会

2 議 事

- （１） 岩手県大船渡市の林野火災に伴う対応状況について
- （２） 昨年度の協議会活動について
- （３） 今年度の協議会活動について
- （４） 災害廃棄物対策推進検討会における検討結果について

3 事務連絡

4 閉会

◎配付資料

- 【資料 1-1】 協議会設置要綱
- 【資料 1-2】 令和 7 年度災害廃棄物対策東北ブロック協議会 構成員名簿
- 【資料 1-3】 令和 7 年度第 1 回災害廃棄物対策東北ブロック協議会 出席者名簿
- 【資料 2】 令和 7 年岩手県大船渡市の林野火災に伴う対応状況
- 【資料 3】 令和 6 年度協議会活動報告
- 【資料 4-1】 令和 7 年度協議会活動・運営方針（案）
- 【資料 4-2】 令和 7 年度人材育成研修（案）
- 【資料 4-3】 令和 7 年度関係団体連絡会（案）
- 【資料 4-4】 令和 7 年度仮置場設置訓練（案）
- 【資料 4-5】 令和 7 年度半島地域における図上演習（案）
- 【資料 4-6】 令和 7 年度災害廃棄物処理計画策定支援・改訂支援（案）
- 【資料 5】 災害廃棄物対策推進検討会における検討結果

3. 議事要旨

(事務局 平江)

それでは定刻となりましたので、只今から令和7年度第1回災害廃棄物対策東北ブロック協議会を開会いたします。

皆様方にはお忙しい中オンラインでご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日の進行を務めます、応用地質の平江でございます。どうぞよろしくお願いいたします。ご発言されるとき以外はカメラとマイクをミュートにさせていただきますようお願い申し上げます。

それでは開会にあたりまして、環境省東北地方環境事務所の中島所長よりご挨拶をお願いいたします。

(東北地方環境事務所・中島所長)

皆様、おはようございます。東北地方環境事務所の中島でございます。

構成員の皆様におかれましては、大変お忙しい中本日はご参加いただき感謝申し上げます。

協議会の開催にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

まず最初に、本年2月に発生した岩手県大船渡市の林野火災でお亡くなりになった方のご冥福をお祈りし、ご遺族の方にお悔やみを申し上げます。また被災された方に心からお見舞いを申し上げたいと思います。

火災に伴う対応状況につきましては、後程岩手県から詳しくご説明をいただく予定ですけれども、大船渡市、岩手県、当事務所など関係者が緊密に連携し、災害廃棄物の円滑な処理を推進して参りたいと考えております。

そして本日の協議会ですけれども、主に今年度の活動運営方針の検討をお願いできればと考えております。是非皆様から活発なご意見を頂戴し、有意義な時間としていただければと思います。是非どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局 平江)

ありがとうございました。

本日の出席者の紹介は名簿にて省略をさせていただきます。

資料確認も次第にて省略をさせていただきます。

それではここからの議事進行は吉岡会長をお願いいたします。

（吉岡会長）

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。座長を務めさせていただきます東北大学の吉岡でございます。

先ほど中島所長の方からも冒頭でご挨拶の中にありましたように、2月に起きました大船渡市山林火災については被災された方に改めてお悔やみを申し上げます。

これまでも災害廃棄物の処理ということでこの検討会を進めて参ったところでございます。国の方でも並行してグランドデザイン等も含めた検討がされているところではありますけれども、これまでも地震等に伴って火災が発生する例というのはありましたし、検討の中でも火山、噴火による災害の想定もその中で検討はされてきたところではありますが、山林火災についての廃棄物についてはこれまでも検討がなされていないということで、やはりいつどういう災害が起こるかということについてはその時々々の気候状況であったり、様々な観点でいろんな角度から考えないといけないということを改めて思い知らされたという、そういう状況だったかと思います。

そういうことも含めまして今年度どういったような形でこのブロック協議会の中で検討していくのかについても、まずは本年度の1回目ということになりますので、どうぞよろしくご検討、ご意見等を賜りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは本日の進行でございますが、議題の1から4を通して資料全てまず事務局の方からご説明をいただきたいと思います。

その後に名簿順になりますけれども、青森県さんから、喜多方市の順で自治体構成員の皆様からまずは災害廃棄物の対策に係る本年度の各自治体の取り組み予定というものを口頭でご発表をいただくとともに、先ほどの事務局説明資料に対する質問や意見ということになりますけれども、それがあれば続けて述べていただければと思います。

非常に多くの出席者がございます。時間の都合もございますので、各自治体の発言は3分以内ということでお願いをしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

自治体構成員以外の皆様で何か質問、意見がございましたら、自治体構成員の発言の後に時間を設けたいと思いますので、その際にご発言をいただければと思います。

最後に事務局からいただいたコメント、質問に対してまとめて、回答をしてい

ただくということにしたいと思います。

それではまず議題の 1 から 4 を通して説明をお願いしたいと思います。

まず一番の方ですね、岩手県大船渡市の林野火災に伴う対応状況についてということで、岩手県さんの方をお願いしたいと思います。

（岩手県 佐藤氏）

岩手県資源循環推進課の佐藤と申します。

（資料 2 により説明）

（吉岡会長）

はい。どうもありがとうございます。

それでは続いて、議題の 2 に移ります。昨年度の協議会の活動についてご説明いただきたいと思います。

東北事務所の方からお願いします。

（東北地方環境事務所 谷津）

はい。東北地方環境事務所の谷津と申します。よろしくお願いします。

令和 6 年度協議会活動の報告をいたします。資料 3 をご覧ください。

（資料 3 により説明）

（吉岡会長）

はい。ありがとうございます。続いて議題の 3 の方に移ります。

今年度の協議会の活動についてのご説明でございます。これも事務局の方からお願いします。

（東北地方環境事務所 谷津）

引き続き谷津からご説明をいたします。資料 4-1 をご覧ください。

（資料 4-1 により説明）

（吉岡会長）

はい。それでは続いて資料の 4-2 の方から順番にご説明をお願いしたいと思います。

（応用地質 平江）

令和 7 年度人材育成研修案につきまして応用地質平江より説明をいたします。
資料 4-2 をご覧ください。

（資料 4-2 により説明）

（吉岡会長）

では資料 4-3 の方ですね、これもお願いいたします。

（応用地質 平江）

引き続き説明させていただきます。

（資料 4-3 により説明）

（吉岡会長）

はいありがとうございます。

では引き続いて資料 4-4 の説明もお願いいたします。

（応用地質 亀井）

はい。資料 4-4 の説明をします。

（資料 4-4 により説明）

（吉岡会長）

はい。では引き続き資料 4-5 をお願いいたします。

（応用地質 亀井）

はい。

（資料 4-5 により説明）

（吉岡会長）

はい。それとあと次の資料 4-6 になりますね。

はい。お願いいたします。

（東北地方環境事務所 佐藤）

はい。東北地方環境事務所の佐藤と申します。資料 4-6 をご覧ください。

(資料 4－6 により説明)

(吉岡会長)

はい。ありがとうございます。

それでは続いて、議題の 4 の方に移ります。

災害廃棄物対策推進検討会における検討結果についてということで、これも事務所の方からご説明をお願いしたいと思います。

(東北地方環境事務所 佐々木)

はい。東北地方環境事務所の佐々木です。資料 5 について説明させていただきます。

(資料 5 により説明)

(吉岡会長)

はいありがとうございます。

以上 4 つの議事についてご説明をいただいたところでございます。

それでは各名簿順ですけれども、各自治体の方からご発言をお願いしたいと思います。青森県さんの方から順番にいきたいと思います。まず最初に廃棄物対策に係る本年度の各自治体の取組予定ということにつきまして、口頭でご発表、ご説明をいただいて、そののちにご説明いただいた内容につきましてご質問やご意見を賜りたいと思います。時間の都合もありますので、3 分以内でということをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。それではまず最初に、青森県さんの方からお願いいたします。

(青森県 中野渡氏)

昨年度は幸いにして大きな災害はなかったのですが、大雪が降りまして、その関係で、倒壊した家屋の公費解体ができないかという相談が複数の市町村からあったのですが、結局災害補助金の申請までには至りませんでした。

それから今年度の対策の方ですが、昨年度に引き続いて仮置場の設置運営訓練をいたします。去年は八戸市で行ったのですが、今年は場所を変えて津軽地域、具体的に言いますと今黒石市さんの方と相談を進めております。

それから住民と協働した地域ワークショップを津軽地域 1 ヶ所、県南地域 1 ヶ所で実施したいと考えております。

それから先ほどお話がありました東北地方環境事務所さんが主催します半島地域での図上演習の方も、今後相談しながら進めていきたいと思っております、災害廃棄物に対する対応力を向上したいと考えております。

あと質問なのですが、岩手県さんの山林火災ですが、具体的に、例えば公費解体をされるということなのですが、実際何件くらい公費解体するのか、あてこの様な山林火災で実際の災害廃棄物の量はどれくらいになるのか、ということを含めて分かる範囲でお聞きしたいです。以上です。

（青森市）

欠席

（弘前市 葛西氏）

当課の今年度の取り組みの予定としましては、災害廃棄物処理計画の見直しを検討しているところでございます。

近年大雨であったり大雪の災害など、そういった自然災害が頻発している状況でしたので、こういった状況に速やかに対応できるように計画の更新を行いたいと考えております。

またいつ災害が起こっても対応できるように日頃からそういった体制も整えていきたいと考えております。

先ほどのご説明に関する質問は特段ございませんでした。以上です。

（八戸市 早狩氏）

当市における取り組み予定についてですが、昨年度、先ほど中野渡さんからもお話がありました通り、県主催の災害廃棄物処理の対応強化事業としまして、当市において県内の自治体、関係事業者の方々と合同で仮置き場の設置運営訓練を行いました。また同時に市内の町内会やボランティア団体、大学機関とか学生さんなどが参加する、災害廃棄物の特徴や処理についての意見交換を行うワークショップを開催しております。大変好評でございまして、これらを踏まえてですね、今年度におきましては、収集であるとか、分別、仮置場の訓練により、より実践的な状況を付与しました、市民、事業者を含めた協議を継続して、実施することで処理マニュアルの精度を上げていきたいと考えております。質問はございません。以上です。

（岩手県 本正氏）

岩手県の取り組み予定としては4つございます。

1つ目が大船渡市に対して災害廃棄物処理の技術的支援をすると。2つ目が資料4-2の方に記載がございましたけれども、環境省の人材育成研修として7月から8月頃に、2回に分けて研修をします。2回目は図上演習を予定しております。3つ目は、資料4-4の方でご紹介いただきました、11月に、環境省東北地方環境事務所さんにご支援いただき、仮置場設置訓練をいたします。4つ目は、災害廃棄物処理計画をまだ策定していない市町村に対して働きかけを続けていきます。質問はございません。以上です。

（盛岡市 南幅氏）

盛岡市の取り組みについてお知らせいたします。

今年度ですが、盛岡市災害廃棄物処理計画、策定しておりますけれども、こちらについて環境省の方で令和5年度に災害廃棄物の対策指針の技術資料が改定されまして、その内容を反映するということで予定をしております。具体的には災害廃棄物の発生推計量、こちらの算出し直すということで予定しております。その他、昨年度までに発生した災害の当市での対応、こういったものも反映させるような形で予定をしております。

もう1つは毎年盛岡市の方で廃棄物の分野以外で各部署が集まって、総合防災訓練というのをやっているのですが、その中で避難所とかに設置する仮設トイレ、こちらの設置訓練を行う予定をしております。

その他各種の研修などへの参加ということも予定しております。事務局の説明資料等への質問はございません。以上です。

（岩手沿岸南部広域環境組合 平野氏）

私どもは3市2町の構成となっております、構成市の1つであります大船渡市で今回大規模な火災があったことにより、当初当組合といたしましても、できる限りのことをやる方向で準備してございました。

とりあえずは火災ごみ27トンが近く搬入される予定となっております。

また先ほど説明でもありましたが、アワビの大量に廃棄になったもの、これについても最初は処理をお願いされたのですが、こちらについては、別な方法だということで、私どもとしてはいろんな対策がとれるかと思いますが、逐一大船渡

市さんと相談しながら進めて参りたいと思っています。資料に対する質問は特にありません。以上です。

（宮城県 渡邊氏）

宮城県の昨年度の取り組みですけれども、宮城県の災害廃棄物処理計画を昨年度、改定いたしました。内容としましては想定する被害を東日本大震災相当クラスの地震にしたということと、風水害の被害想定を直近の令和元年度の東日本台風に修正したということを改定しております。今年度はその計画を改定しましたので、手引きの方を合わせて改定の予定をしております。

また先ほど東北地方環境事務所さんの方からもご説明ありましたけれども、災害廃棄物の処理の対応の強化に向けて、仮置場の実地演習を昨年度行いました。市町村さんの方からは好評でしたので、今年度も仮置場の実地演習を行い、トータルとしては災害廃棄物の図上演習も含めて4回演習を予定しております。

あと今年度からの新たな取り組みとしましては、県内の保健所6ヶ所ございますけれども、その6ヶ所で地域連絡会議の開催を予定しております。この会議は保健所の職員、市町村職員、災害協定団体の職員との関係を構築するために、顔合わせという形で見える関係性を築くために関係の構築、また災害廃棄物に係る課題点を共有する場ということで、県の方で地域連絡会議の開催を予定しております。

あと資料等について議題2、内容についてのご質問なのですが、もし分かればなんですが、岩手県さんの大船渡の林野火災についてなんですけれども、先ほどアワビについて今後課題だということでお話いただいておりますが、火災の概要の中で、家畜約2,000羽と、あと菌床のしいたけの約8,000個、これについてどのように災害廃棄物として処理されているのか、もしくはされる予定があるのか、教えていただければ幸いです。以上です。

（仙台市 大江田氏）

仙台市では災害廃棄物処理計画に基づく災害廃棄物処理実施マニュアルの方を令和3年に策定し、直近では令和7年の3月に一部改訂しているところでございます。今年度につきましては、被災地応援派遣で得た知見をより一層反映させ、本市が被災した際に各職員が迅速な対応をとれることを念頭に置いた更なる見直しを、年度内を目標に行う予定でございます。

またそれに先立ち局内における勉強会の開催も考えているところでございます。

以上です。特に質問等もございませんでした。

（石巻市 齊藤氏）

本市におきまして、特に災害廃棄物関係で実施している事業はなくて、宮城県さんの方の図上訓練に参加するという形のみとなっております。それから当部とはまた違うのですが、危機対策課、これまでは総務部に所属していたものが今年度から市の組織機構の改革によりまして、危機管理部という部を設立いたしました。その中で3つの危機対策関係の課を新たに設立して対応するような形となっております。

災害廃棄物処理計画の方については、平成31年度に作成しております。

直接関係ないのですが、東日本大震災からの応援職員、全国からいろいろご協力いただいております。平成23年度から始まって昨年度令和6年度で終了しております。その14年間で118の自治体から1,788人のご支援をいただきました。ありがとうございました。質問等については特にありません。

（秋田県 工藤氏）

※音声不良のため事務局にて聴き取り

令和6年度を取組として、秋田県では2か年にわたって水害の被害があったので、それを踏まえて災害廃棄物処理計画の改定を3月末に行いました。

令和7年度は、市町村等の担当者の異動があっても円滑な災害廃棄物対応ができるよう、東北地方環境事務所の人材育成事業として基本的な内容の研修を実施予定です。また、県独自の研修として、災害廃棄物仮置場が運営できるように県北と県南に分かれて実地訓練を実施予定です。

（秋田市 佐藤氏）

秋田市の災害廃棄物に対する取り組み状況についてご説明いたします。

令和7年3月に令和5年7月の大雨による災害廃棄物の処理事業が完了したということで、令和5年7月豪雨の災害廃棄物処理実行計画の最終版を令和7年3月に改定し、発行したところでございます。あわせて令和5年7月豪雨の対応を踏まえた検証事項を盛り込んだ秋田市災害廃棄物処理計画を令和7年3月に改定したところでございます。

令和7年度に入りまして、今年度の動きとしましては、東北地方環境事務所さんの方で主催される研修事業ですとか、県で主催する研修事業に参加をして、対

応能力の向上に努めて参りたいと思っております。質問はございません。

（北秋田市 村形氏）

本年度の当市の取り組みといたしましては、今年度も秋田県の人材育成研修に参加させていただき、当市の災害廃棄物処理計画改訂の参考としたいと考えております。説明資料に対する質問についてということなのですが、当市では令和2年4月に災害廃棄物処理計画を策定しましたが、5年経過しております。ただ当時のままの計画となっております、国の指針や県の計画との整合性が取れてない状況にあると考えております。資料4-6の廃棄物処理計画策定改訂支援について、来年度も予定があるのか、あとはちょっと把握してなくて申し訳ないのですが、自治体の負担があるのか教えていただければありがたいと思っております。質問は以上です。

（山形県 黒沼氏）

本県の取り組みにつきましては、まず県独自で、仮置き場の設置訓練を、県の北部にあります舟形町の方で6月20日に実施予定でございます。

現在実施の内容の細かいところを、委託先の日本環境衛生センター様と詰めている状況にございまして、各市町村、廃棄物処理業者等にお声掛けをしまして、設置訓練を行う予定でございます。

また昨年、令和6年7月からの大雨に関する公費解体で一部これから始まるものがございまして、そちらに関して環境省様からの補助金等の申請につきまして関係自治体様への支援を行っている状況にございます。取り組み事例については以上になりましてこちらからの質問事項は特にございません。以上です。

（山形市 高橋氏）

今年度の取り組みとしましては、昨年度から取り組みを進めております水害を想定したマニュアルの策定を引き続き進めていくということで考えております。取り組みとしては以上になります。質問事項は特にありません。以上になります。

（鶴岡市 小野寺氏）

鶴岡市では昨年度山形県さんの指導のもと主催しています災害廃棄物仮置場設置訓練、鶴岡市を会場に10月に行いましてそちらの方に当市会場でありましたが参加という形でいろいろ研修させていただいていたところです。

今年度、市独自としては特に計画はございませんけれども、今年度も山形県さんの方と指導を仰ぎながら、災害時の初動の対応ということで、考えていきたいとは思っております。特に質問等はございません。以上です。

（福島県 戸来氏）

福島県では昨年度ですね、令和4年3月に発生しました福島県沖地震の災害廃棄物の処理が完了しました。

今年度の取り組みですが、資料4-2にありました人材育成研修を行う予定です。また資料4-6にありました通り福島県では現在東北6県の中で災害廃棄物処理計画の策定率が一番低い状況となっております。ちょっと資料4-6のデータが少し古くて、今時点ですと59市町村中、41市町村が策定しており、計約69%の策定率となっております。こちら資料4-6にあります、支援事業を用いて今年度、7町村が策定する予定であります、引き続き策定率100%に向けて市町村の支援等を行っていく予定です。

なお、事務局に対する質問事項はありません。以上です。

（福島市 根本氏）

福島市から大きく2点ございまして、まず1点目、令和4年度に策定しました災害廃棄物処理計画及び令和5年度に策定しました32ヶ所の仮置場の時点修正を行っていきたいと考えています。

2点目です。令和4年度福島県沖地震の災害廃棄物処理、福島県の報告とかぶりますけれども、令和6年度末でようやく終了いたしました。公費解体及び費用償還合わせて約650件の処理がようやく終わったところでございます。

質問はございません。以上です。

（いわき市 西山氏）

昨年度いわき市の方では、住民が主体的に動いてくれるような災害ごみ処理方法というものを検討しまして、実際に制度として落とし込むことを行いました。

行政の力ではどうしても勝手仮置場の発生を100%防ぐということはちょっと難しいと内部での話し合いに出たものですから、地域住民の方と協力体制をしっかり持つ、それをただの口約束じゃなくてちゃんとした市の制度として落とし込むところで事業を実施しまして、今もそのゴールに向けて対応中になっております。

本年度はですね、昨年度から始まった事業を、実際幾つかの住民の方たちと協力体制を築くことに成功しましたので、さらなる周知と、あと実際の災害が起こることを想定して、そういった訓練をどんどん実施していけたらなと考えております。以上です。

（郡山市 伊東氏）

郡山市の取り組みとしては3点ございます。

まず1点目、大規模災害時に災害の廃棄物を迅速に処理するにはやっぱり行政だけでは対応しきれない部分がありますので、民間の事業者との連携、これをどのように進めていくべきなのか、連携が図れるのか、協定等の検討を今年度進めて参りたいと思います。

2点目につきましては、福島県さんの方で開催される連絡会、こちらの方に参加しまして、情報収集、連携のあり方等について更に検討していきたいというふうに思っています。

3点目なのですが、本年4月に災害廃棄物処理計画を改定いたしました。庁内の方にしっかり落とし込みまして、有事の際にしっかり計画に基づく対応ができるように進めて参りたいと思います。なお質問はございません。以上です。

（喜多方市 五十嵐氏）

喜多方市では今年度災害廃棄物処理計画の見直しに向けてと、大雨の対策とかを踏まえて改定に向けて進められればと考えております。

事務局のご説明について質問等もございませんでした。以上です。

（吉岡会長）

幾つかご質問を受けておりますが、自治体の方が一応これで1回りしたということで、自治体の構成員以外の方から何かご質問やご意見ございましたら、挙手をお願いしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

それでは事務局の方から幾つかご質問いただいておりますので、回答をお願いしたいと思います。

（岩手県 佐藤氏）

青森県から質問をいただきました、まず災害廃棄物の発生量についてです。こちらはあくまで推計値なのですけれども、こちらの資料の通り合計で約7,000t

程度の災害廃棄物の発生量を推計しております。こちらの内訳の資料につきましては、公表されていない資料ですので、もし必要ということでありましたら、担当者限りということで、個別にお問い合わせいただければ提供させていただきます。

またもう1つのですね、公費解体の件数についても、こちらも具体の公費解体の棟数については大船渡市から公表されていない情報ですけれども、また、まだ正確な数字も固まってはおりませんが約200棟ということで伺っております。

公費解体については5月末ごろから実際に工事に着手する予定となっております。

続きまして、宮城県さんからいただきました質問についてですが、まず菌床しいたけの処理についてですが、まだ現地にありまして処理がしていない状況です。というのも林野庁の補助を使って処理をするのか、それとも環境省の災害等廃棄物処理事業費補助金を使って処理するのかについてまだ調整中ございまして、環境省の方にも今どちらの補助金で処理すべきかを相談しながら、現在の大船渡市とともに処理の方法等について検討していくこととしております。

もう1つの家畜については、ブロイラーが約2,000羽へい死したのですけれども、こちらについては火災の鎮火後に、事業者自らが環境省の補助金等を使わずに処分したというふうに伺っているところです。以上です。

（東北地方環境事務所 佐藤）

先ほど北秋田市さんからご質問があった件についてお答えをさせていただきたいと思います。

北秋田市さんでは令和2年4月に災害廃棄物処理計画を策定し、5年経過したので改訂等をしたいということで、先ほど説明申し上げた災害廃棄物処理計画の改訂の支援について、来年度の予定はどうか、財政的負担があるのかどうか、2点のお尋ねについてお答えいたします。

まず今年度の事業に関しましては、自治体の皆様の財政的な負担はございません。環境省で財源を負担した上で支援をしていくというスキームになっております。来年度の予定については、現時点で確定的なことは申し上げられませんが、できれば同じような事業を継続して行っていきたいということで、今後検討を進めて参りたいと思っております。以上でございます。

（吉岡会長）

ありがとうございます。他、ご質問いかがでしょうか。

では一点私の方からですね、今回の林野火災に伴っていわゆる従来の廃棄物関連の事務フローであるとか解体フローっていうのは、これまで作られてきたマニュアルあるいは計画に基づいて進めておられるというお話がありましたけれども、このフローの中で特に今後課題になりそうな項目であるとかですね、今このフローでなかなかちょっと進みにくかったとか、あるいはこういった点が今回の場合、これまで作り上げてきたフローの中で生かされたとか少しその辺の何かお話あればお聞かせいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

岩手県さんの方に聞いた方がよろしいですかね。お願いいたします。

（岩手県 佐藤氏）

こちらのフローが環境省の災害廃棄物関係の事務フローで、具体的には市町村が発災後にどのような事務を進めていくかというフローなのですが、こちらでも参考にしながら、災害廃棄物の処理について進めております。

課題となったところとしましては、大船渡市の方で主体的に進めているところではあるのですが、当初ですね、災害廃棄物の種別ごとにこの災害廃棄物については環境省の補助金を使えるかどうかについて、確かに環境省のマニュアルで、原則として一般家庭から排出された生活環境保全上必要な廃棄物の処理というふうな方針は示されているのですが、そこについてちょっと少し読み方として幅のある書き方になっているので、この廃棄物については、環境省の補助金を使えるのかと、使えない場合は全額市が負担することになるので、そこはまた検討が必要だということで、少しその辺りの判断というか検討に、また環境省への確認等にちょっと時間を要していた部分はあると思います。

先ほども宮城県さんからも質問がありましたけれども、アワビであったり、菌床しいたけの施設であったりですね、こちらについては、環境省の補助も使える可能性もあるというふうに認識しておりますので、そのあたりを速やかに県及び環境省の方でしっかり確認して結論を迅速に出して、大船渡市の方にこれは災害廃棄物の補助金を使える、使えないということを早くお伝えできれば初動の処理方針についてもスムーズに進んだのかなというところは、現時点として担当者としての所感ですけれども思っております。以上です。

（東北地方環境事務所 佐々木）

協議会の皆さんにも覚えておいていただきたいのですが、災害廃棄物処理事業は、あくまでもごみとして処理する費用を補助するということで、建て替えるとかまた新しく建てる経費は補助になりません。ただ農林水産省とか林野庁の補助メニューには、壊して処理して建て直すというところまで補助になりますので、どちらを使うかというともちろん建て直す方の補助を使った方がいいということになりますので、その辺の調整をしていたということになります。補助対象になるかどうかというのは、そのときの災害の状況によって異なりますので、災害廃棄物処理事業を所管する環境省と農林水産省の間で調整が図られて結論が出るということになります。

（吉岡会長）

それでは、あとは皆さんのご発言の中で、やはり冒頭でも環境省の方からご説明いただいた通り計画の策定率ですね。あるいはこれの改定というところに対してその辺の国としての支援体制とかですね、改定のところに対する支援体制だとか新しく作るところには当然きちんとした支援体制は持っておりますが改定作業が必要だとかですね。多くの自治体から、策定予定であるとか支援希望とかいうのも出てきておりまして、その辺について少しご説明、補足でいただけますでしょうか。

（東北地方環境事務所 佐藤）

資料の4-6の2ページ目をご覧くださいと存じますが、令和7年3月末現在の策定状況の表になっております。

先ほど申し上げた通り、東北ブロック管内の策定率は全国平均に比べて低い状況にあり、近年かなり策定は進んでいるのですが、資料の通り令和7年3月末現在で227自治体のうち188の自治体が策定済みで未策定が39自治体ございまして、策定率が83%となっております。この全国の数字は令和6年3月末現在で1年前のデータですので、更にこれから上積みがされておりますので、その差がこれで見て取れると思っております。

私どもとしては、この未策定の自治体をここ数年以内に、国の目標としては2030年度まで市町村の策定率を100%となっており、4、5年あるのですが、できればそれよりも早期に、災害への備え、災害が起きた場合の、迅速な対応を図るためにも、未策定の自治体における処理計画の策定を推進して参りたいと思っております。

それから改訂に関しては、策定済みの 188 自治体のうち、正確な数字は今申し上げられないのですが、水害を想定している計画はその半数程度にとどまっているというのが実態でございます。先ほど申し上げました通り東北ブロックにおいてはここ 3 年続いて、豪雨による災害が発生して災害廃棄物が相当数発生しているという状況でございますので、水害を想定した処理計画への改定というのがもう 1 つの大きな課題であると思っております。私どもとしましては、今年度もそうですが、来年度以降もその改訂に向けた支援は継続して参りたいと思っております。以上です。

（吉岡会長）

ありがとうございます。

本年度から各県の産資協の方々にオブザーバー的に検討会のメンバーとして入っていただくということになったわけで、これに伴って各県の方での連絡会が開催される予定になっているというところについて、もう少し詳しく趣旨というか、その経緯等も含めて改めて詳しくご説明いただけますでしょうか。

資料 4-3 で、各県の連絡会の方針ということで出てはいますが、全体的なことも含めてですが、平時から民間の活力を生かした対応が必要でその間、お互いの顔が見える関係が非常に大事であるというようなことで、このブロック協議会の方にも産資協の方に入っていただいたと。ただやっぱり宮城県だけだったということもありますので、これを広くということで、今回このような形におそくなったということなのですが、その辺についてもう何か補足的にご説明いただくことがあれば、ぜひ、はい、佐々木さんの方でお願いします。

（東北地方環境協事務所 佐々木）

東北地方環境協事務所、佐々木から経緯等ご説明させていただきます。昨年度の協議会において、関係団体からもう少し具体的な棲み分けなどを考える場が欲しいというような意見もありましたので、昨年度、東北全県の産業資源循環協会さんに、協議会のメンバーになっていただいて、その上で関係する団体、建設業協会や解体業の協会さんなど、この他にし尿を処理する団体などもありますが、そういうところと災害が起きた場合に、情報を共有して速やかに廃棄物処理が進むよう対応していきたいということでこの団体連絡会を設定させていただきました。

県によって産資協さんと協定を結んでいる割合は異なると思いますし、他の協

定も結んでいる県もあれば、環境部局で協定を結んでいないというところもあると思いますが、まず一堂に会してどのような棲み分けができるのか、またはどのように連絡調整をしていけば災害廃棄物処理がスムーズにいくのかということを考える場を設けますので、ご協力をいただきたいと思います。

（吉岡会長）

ありがとうございます。資料 4-2 の方で、各県の今回人材育成に関する具体的な概要案ということで出てきております。秋田県さんにおかれましては、育成事業については 2 回を予定しているということでございます。この内容につきましては、各県で行われる人材育成の内容というものと同一ということになりますので、また仮置場の設置運営に関しての実施訓練も秋頃に 2 回を予定されているということが秋田県さんとしての本年度の予定だということでございます。

併せて連絡会の開催というのを 1 回予定されているということでございます。これは 6 月ぐらいオンラインでということを用意されているということでございますので、資料の方ご覧いただければその取り組み状況についてご理解いただけるものと思っております。

はい、それでは他皆さんの方からご質問等も含めてご発言でございますでしょうか。よろしいですか。

はい、それでは本日の議題 3 で本年度の協議会の活動運営方針についてご説明ありましたが、事務局の方から出されましたご提案の通りということでよろしいですか。異議、何かご意見ございましたら、挙手をいただくなり、ご発言をいただければと思いますが。

特にないようでございますので原案通り、まず進めさせていただきますが、やはり災害というのはいつ起こるかわからないということもありますので、その際には適宜ですね、適正な形で対応するというところでご理解をいただければというふうに思います。

本日ご出席されておられます岩手大学理工学部の大河原先生の方から何か全体的なことも含めまして、ご発言でございますでしょうか。現地、大船渡を含めて、いろいろと大変なことあると思いますがその都度いろいろとアドバイスいただければと思います。

（岩手大学 大河原教授）

大船渡のほうは、この後、降雨等による土砂災害が危惧されているということ

だけお伝えしたいと思います。以上です。

（吉岡会長）

ありがとうございます。

はいそれでは特にないようでしたらこちらの方でその他の議案はございませんが皆さんの方からその他ということでございますでしょうか。

それでは皆さん、長時間どうもありがとうございました。以上でマイクを事務局に戻したいと思います。

（事務局 平江）

吉岡先生大変ありがとうございました。

以上をもちまして、令和7年度第1回災害廃棄物対策東北ブロック協議会を閉会いたします。

ご参加いただいた皆さん、本日は長時間にわたりありがとうございました。

以上